

早稲田大学 商学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分(現代文1問、古文1問)
難易度	昨年並み

〔大問別講評〕

- 一 評論文。「ルネッサンスにみられる死と再生」について。出典：花田清輝『復興期の精神』。
 (本文字数：約4000字＝昨年より約300字増加。設問数：11＝昨年より1問減少。)

小問	難易度	コメント
問一	易	〔漢字〕3の「能事」は「なすべき事柄」の意。
問二	易	〔漢字書き取り〕アも文脈から意味を容易に判断できる。
問三	やや難	〔空欄補充〕直後の文脈、及び、ルネッサンス期の人々について述べた、空欄の1行前の「なお存在し続けている」という記述から判断できる。
問四	標準	〔空欄補充〕空欄の直後の表現、及び、4行後の記述から判断する。
問五	やや難	〔空欄補充〕直前の「それ」は「人間的な……影像」を指し、それを「信じがたい」と否定的に論じていることから、「生ぬるい」を選ぶ。
問六	やや易	〔空欄補充〕前後の文脈、とくに、4行後から容易に判断できる。
問七	やや易	〔空欄補充〕は1行前、は前3行の内容に合致する箴言を選ぶ。ともに箴言の後半部分から容易に判断できる。
問八	標準	〔指示語〕「ペーター」と対比されていて、直前の内容を代表する語を探す。
問九	やや易	〔空欄補充〕前の段落の最後から2～3行目より。消去法でも容易だろう。
問十	標準	〔空欄補充〕前後の文脈と、筆者が否定的に捉えていることがヒント。遠くにあるので時間がかかったと思われる。
問十一・(1)	やや易	〔傍線部説明〕他の選択肢が明らかに不適切である。
問十一・(2)	やや易	〔理由説明〕傍線部直後の記述から明らか。

二 古文。出典：『うつほ物語』。

(本文字数：約 1300 字 = 昨年より約 300 字増加。設問数：10 = 昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問一・1	やや易	【文脈把握】直前・直後の文脈から「いみじ」の意味を規定する。
問一・4	標準	【文脈把握】北の方への返事として文脈に合うものを選ぶ。
問一・7	やや易	【文脈把握】傍線部の「えあるまじく」の語義と、直後の乳母のセリフから考える。
問二	易	【空欄補充】各空欄の前後を読めば容易に判断できる。
問三	やや易	【文脈把握】「如月ばかり……奉らせたまふ。」から判断する。
問四	やや易	【敬意の対象】傍線部を含む主語と目的語をおさえて判断する。
問五	易	【語順整序】「す」の品詞が示されているため、かなり容易。
問六	易	【文法問題】「なり」の識別。傍線部は断定の助動詞「なり」。
問七	易	【文脈把握】傍線部の「才」「つかさかうぶり」の語義から判断する。
問八	標準	【文脈把握】傍線部は夫婦愛の深さを表現している。「比翼の鳥」「連理の枝」は、男女間の契りが深いことのたとえとして使われる。
問九	やや易	【内容合致】二は後半が、ホは「宮廷で」の部分が、それぞれ本文内容と合わない。
問十	易	【文学史】『うつほ物語』は平安中期に成立した作り物語。『源氏物語』などに影響を与えた。

〔総合コメント・今後の指針〕

昨年同様、現代文、古文、ともに読みやすい文章が出題された。

大問一は、「ルネッサンスにみられる死と再生」をテーマにした評論文。筆者の主張が繰り返し何度も述べられているので読みやすい。設問は、問三と問五以外は基本・標準レベルのものばかりなので、高得点を狙いたい。このレベルの出題がされると、読解問題では差がつきにくいいため、漢字の設問での失点が命取りになる。ふだんから漢字の学習にも力を注いでもらいたい。

大問二は、『うつほ物語』。単語のレベルも低いし、複雑な省略もほとんどなかったの、読みやすかったであろう。設問は、基本・標準レベルのものばかりなので、大問一と同様に高得点を狙いたい。問八は選択肢が漢詩だが、「比翼の鳥」「連理の枝」を知っていれば、漢詩を読めなくても正解を選べた。なお、『うつほ物語』は入試頻出典の一つ。本校でも『早大古文 PART 』の【三】などで扱った。頻出典に関しては、大まかなあらすじは把握しておきたい。